

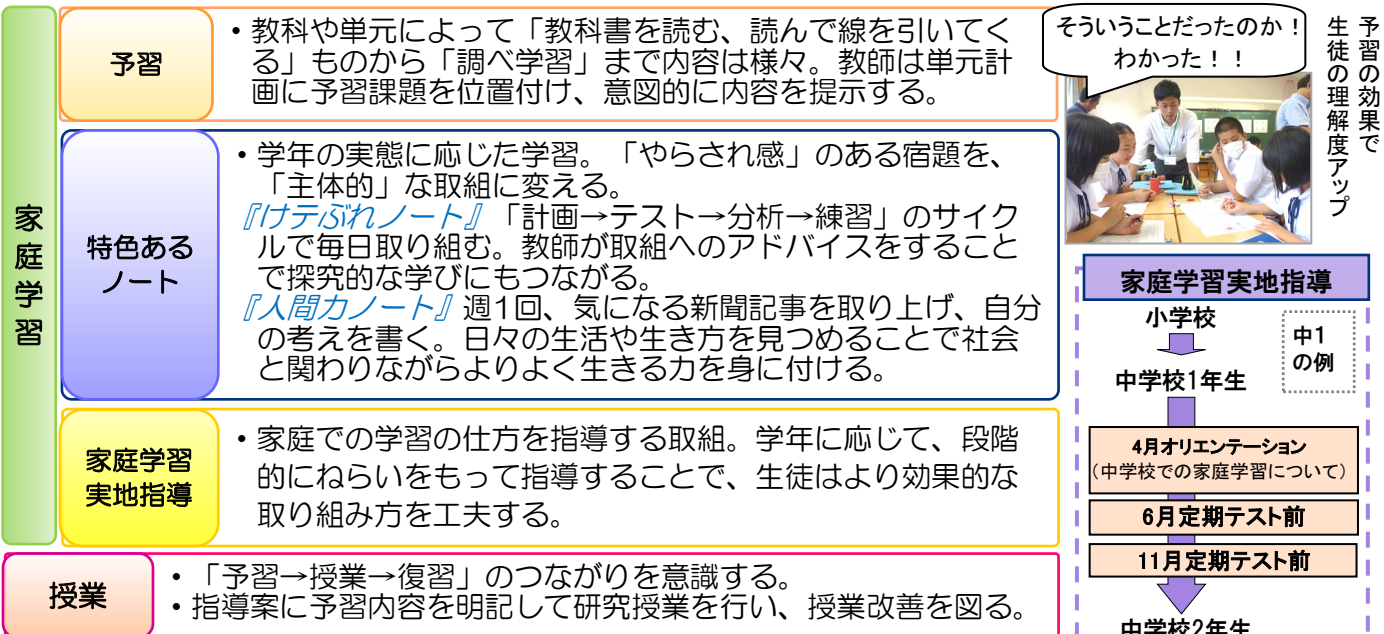
Tobu通信

家庭学習と授業で「学力向上」

智頭町立智頭中学校



智頭中学校は、家庭学習と授業を関連させた学力向上に取り組んでいます。生徒自らが課題意識をもって主体的に学ぶことで「学びの自立、自律」をめざしています。



智頭中学校では、課題意識をもって取り組むための予習を位置付けた授業づくりや主体的に家庭学習に向かうノートづくりを工夫することで、生徒が実感を伴って楽しく授業に向かうことができ、学力向上につながるという相乗効果が表れています。また、家庭学習と授業での学びを有機的に結びつけることは、自ら考え、周りとの協力して課題解決に向かう姿を生み出します。そして、生徒が主体的に将来の夢や目標を立て、自立していくという地域・学校・家庭の共通の願いにつながっていきます。

東部教育局の移転にあたって

局長 長谷川 隆

すでにご案内の通り東部教育局は、前身である東部教育事務所時代を含め、20年にわたって執務を行ってきました鳥取県立生涯学習センター（県民ふれあい会館）から、鳥取市立川町にある鳥取県東部庁舎内に移転しました。

移転に際し書類などを整理する中で、20年前、当時の木下法広初代東部教育事務所長が、事務所の開所式にあたって読まれた式辞を目にする機会がありました。その中に次のような内容がありました。

「私たちは、『地方の時代、学校の時代』を合言葉に、市町村教育委員会とより密接にかかわりあいながら、学校の自主性・自律性の確立へ向けて援助・支援し、県教育委員会の所掌事務を円滑に実施することで、県教育全体の発展に力を尽くしていく考えです。」

開所は2001年、まさに新しい世紀への期待とともにスタートしました。そして20年後の今、令和という新しい時代の始まりの中で庁舎を移転することとなりました。持続可能な社会づくりに向けて、新しい学校のあり方が求められるなどさらなる変化が予想されますが、改めて開所当時の思いに立ち返るとともに、この新たな時代に求められる役割を果たし、東部地域そして県教育の発展のために尽力する所存です。

遊びを通した育ちと学びを未来へつなぐ

遊びきる子ども in 修立幼稚園

鳥取県がめざす幼児の姿は「遊びきる子ども」です。「遊びきる」とは、一人一人が試行錯誤したり、挑戦したりする中で、自己発揮をし、様々な葛藤体験を乗り越えながら友達と関わって十分に遊び込み、満足感や達成感を味わうことができている状態であると捉えられます。

幼稚園・保育所等では、自発的な活動や具体的な体験、遊びを通して多くのことを学んでいます。本年度、岩倉小学校の浅倉たまえ教諭が、長期社会体験研修生として、修立幼稚園で保育体験を行っています。そして、幼児教育や幼児の発達についての理解を深め、幼児期の育ちを踏まえた小学校での指導のあり方について研究しています。そこで見つけた、幼児期の遊びの中の学びについて紹介します。

虫探しの中に見られる学び

友達の考え方に触れたり、思いを共有したりする喜びや楽しさを味わう。

季節の変化に触れながら、自然の美しさや不思議さ、面白さを感じる。



葉っぱで虫のおうちを作ろう。新しいおうちはどうかな。

見つけた虫に興味をもち、予想したり、比べたり違いに気付いたりする。

見通しをもち、新たな遊びに思いを巡らせる。



子どもたちが環境に主体的に関わり、時間を忘れて集中する姿、自分で最後までやり遂げようとする姿に驚いています。子どもたちの「知りたい、やりたい。」という思いから始まる遊び、その気持ちを小学校の学習や生活につなげていくスタートカリキュラムの改善に取り組んでいます。

(長期社会体験研修生 浅倉教諭)

幼児期に遊びを通して身に付けた力は、小学校以降の創造的な思考や主体的な生活等の基盤となっています。だからこそ、小学校では、幼児期の教育、幼児期に育まれている資質能力を理解することが大切です。そして、その力が発揮できるようなカリキュラムの編成(スタートカリキュラム)を工夫し、学びをつないでいきましょう。

「遊びきる子ども」について、詳しくは本冊子をご覧ください。



社会教育コーナー



地域を愛する心を育てる

鳥取市立面影地区公民館では、月2回程度「いきいきおもかげっ子ひろば」の事務局として、地域の大人と子どもをつなぐ取組を20年近く続けています。地域の子どもの数は減っているものの、年々参加人数は増加しており、地域が一体となって取り組んでいる成果だと考えられます。今回は、その取組を紹介します。

子どもと地域をつなぐ「いきいきおもかげっ子ひろば」

公民館が地域のコーディネーター役となり、様々な地域の団体と協力しながら子どもたちの居場所づくりを創出しています。ものづくり教室や昔遊び、ラジオ体操講習会など内容が違つものを30講座近く設け、子どもたちは楽しみにしています。また、子どもと大人の「顔の見える関係づくり」もねらっています。

地域を愛する心

地域の様々な方との関わりを公民館がコーディネート

小学生、中学生

いきいきおもかげっ子ひろば 実行委員会

小学校PTA、中学校PTA、青少年育成協議会、社会福祉協議会、読み聞かせボランティア、まちづくり協議会、婦人会、老人会、体育会、自治会区長会、民生主任児童委員



面影山ウォーキング 自治会・まち協の方と

参加者100人分のおにぎりを作る中学生



ちまきづくり 親子で



グランドゴルフ 社協の方と

中学生は、自分たちが小学校の時に体験した活動のお手伝いをしようと運営に携わることもあります。面影山ウォーキングでは、参加者へおにぎりを作ったりレクリエーションの進行をしたりと積極的に関わります。地域の方との関わりの中で地域を支える次世代のリーダーが育ちつつあります。

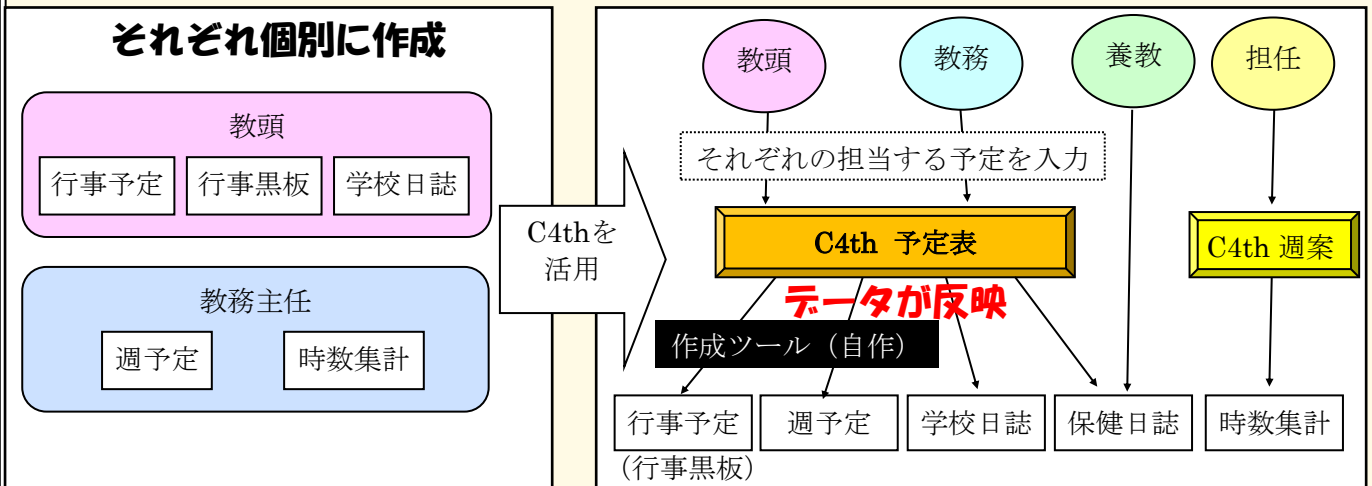
様々な取組を通して、地域のたくさんの大人との出会いやつながりが生まれ、子どもたちの地域を愛する心を育てています。安心できる地域の大人との関係があつてこそ、積極的に活動でき、次への活動の意欲ともなります。「継続は力なり」という言葉どおり、地域への想いを抱かせるためには、地域の人材・資源等と触れ合う機会を習慣的に、意図的に作る事が大切です。

学事コーナー 教頭・教務の負担軽減のために

前期学校訪問で、各学校に、時間外業務が月45時間、年間360時間を超える教職員の解消のための取組を伺いました。各学校の努力により、着実に働き方改革は進んでいることを実感しましたが、多くの学校から聞かれたのが「教頭先生や教務主任の先生の時間がどうしても増えてしまう」ということでした。そのような中、教頭先生や教務主任の先生の負担を何とか軽減しようとする取組事例がありましたので紹介します。

「C4th（学校業務支援システム）の活用」

C4thの予定表を入力することで、これまで、教頭先生や教務主任の先生が、それぞれ個別に作成していた行事予定等が、ほぼ自動的に作成することができるようになります。このことにより、それぞれに割いていた作成時間が短縮されることはもちろんですが、精神的負担もかなり軽減されているようです。



作成ツールを使うと、配布用に体裁が整えられます。週予定も同じように作成されます。

大型プリンターでプリントアウトすると、行事黑板の代わりになります。直接職員室内の大型ディスプレイに映し出している学校もあります。

こんな活用・工夫も

- ◇ 年間行事予定のデータの流し込み
年間行事予定をC4thへ一括登録することで、主だった行事予定が入った状態を作ることができる。
- ◇ パソコンの設定
PCを立ち上げると、強制的にC4thや給与勤怠管理システムが開くように設定することで作業効率が上がる。
- ◇ 週案の活用
各担任が週案を作成することで、授業時数の過不足管理が可能となる。

ご紹介した作成ツールは鳥取市立東郷小学校自作のものです。この他にも、C4th等を使って様々な工夫をされています。

なお、作成ツールを活用されたい学校には、ご提供いただけるとのことですので、「活用してみたい」「もっといろんな活用方法を聞いてみたい」という学校は、東郷小学校にご連絡ください。

少しでも、教頭先生や教務主任の先生の負担軽減になることを願います。